

ここ数年、肝細胞癌(HCC)に対する薬物療法の進歩が著しい。ソラフェニブ単独時代が約10年続いたが、2017年にレゴラフェニブ、2018年にレンバチニブ、2019年にラムシルマブが加わり、現在四つの分子標的治療薬が日常臨床で使用可能となった。カボザンチニブのポジティブな結果も報告され、新たにセカンドラインの治療選択肢として加わることが予想される。加えて、昨年、免疫チェックポイント阻害剤アテゾリズマブと血管新生阻害剤ベバシズマブとの併用療法のきわめて良好な治療成績が報告された。ファーストライン標準治療薬であるソラフェニブに対して優越性が示されたため、今後HCCに対する薬物療法の第一選択となることが期待される。また現在、数多くの免疫チェックポイント阻害剤と分子標的治療薬との併用試験が世界中で行われており、今後、ますますHCC治療戦略において薬物療法が重要となるのは間違いないであろう。

今回、これらの流れを踏まえ、「薬物療法がひらく新しい肝細胞癌の治療 strategy」という特集を企画し、臨床の第一線で実際に薬物療法を行っている専門の先生方に執筆を依頼させていただいた。各々のテーマにおける現状と課題を挙げていただき、加えて多くの先生方に、近々日常臨床での使用が期待される分子標的治療薬と免疫チェックポイント阻害薬との併用療法にも触れていただくようお願いした。本特集によって、複数の薬物療法を有効かつ安全に使用するのに有用な情報が得られ、HCC患者のさらなる予後延長につながることを願っている。最後に、ご執筆いただいた先生方、今回このような機会を与えていただいた編集委員の先生方に厚く御礼申し上げます。

(葛谷 貞二)

臨牀 消化器内科® Vol. 35 No. 8

©2020年7月20日発行

定価(本体3,000円+税)

年間予約購読は前金にて書店あるいは弊社宛お申し込み下さい。ただし、年間購読料は年度により異なりますので、書店または弊社までお問い合わせ下さい。

発行人 増 永 和 也

発行所 株式会社 日本メディカルセンター

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-64 神保町協和ビル

営業直通電話(03)3291-3901(代) FAX(03)3291-3904

e-mail info@nmckk.co.jp

編集直通電話(03)3291-3971(代) FAX(03)3291-3377

e-mail gastro@nmckk.co.jp

郵便振替 00110-2-80695

印刷所 三報社印刷株式会社

・Published by Nihon Medical Center, Inc. ©2020, Printed in Japan

・本誌に掲載された著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は(株)日本メディカルセンターが保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌のコピーやスキャン等による無断複製は著作権法上での例外を除き、禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に出版者著作権管理機構(電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。

■広告申込所/日本医学広告社

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-12-8 電話 03-5226-2791